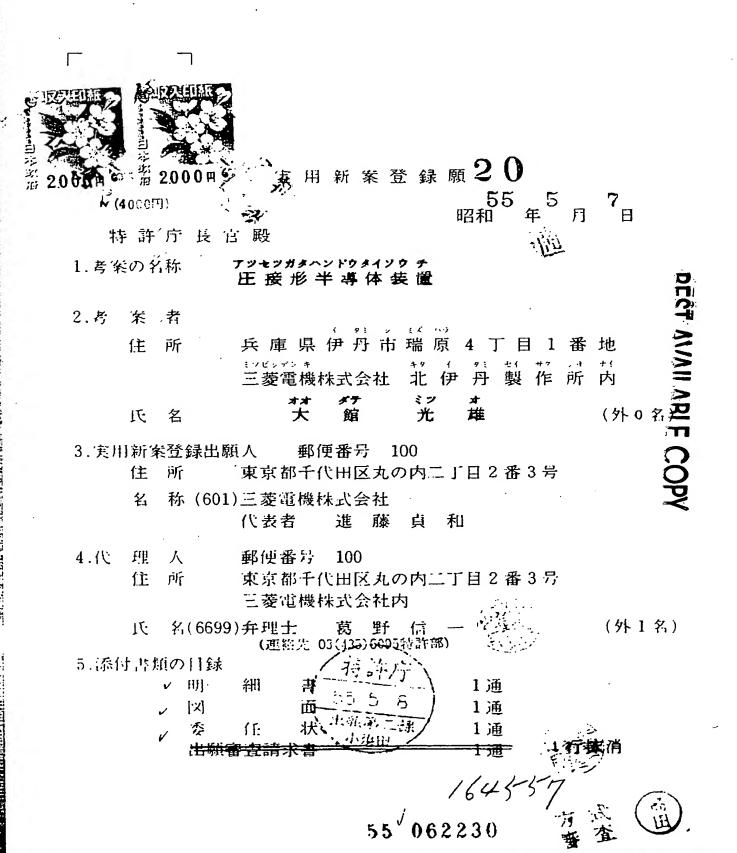
公開実用 昭和56-16455/



1. 考案の名称・

1

圧接形半導体装置

2. 実用新案登録請求の範囲

3. 考案の詳細な説明

この考案は、改良された圧接形半導体装置に関するものである。

従来、圧接形半導体装置はその容器内において 半導体基板と電極とをIIIIバネを介して加圧保持し、

164457

公開実用 昭和56-164557

前記半導体基板と前記電極との電気的及び熱的伝導を行うようにしたものであり加圧力の保持はねじ等によって行っていた。

第1図はこのような従来の圧接形半導体装置を 示す断面図である。



1

)

なり、陰極導電体(3)の板部(8a)を半導体基板(1)の陰極に加圧接触させるための3個のリング状の皿バネ、(5)は陰極導電体(3)の円板部(3a)上に載賞されて、陰極導電体(3)と皿バネ(4)即ち、陰極導電体(3)と側がネ(4)即ち、陰極導電体(3)と側がまるためのリング状のアルミナセラミック製絶縁板、(6)は外壁部に陽極導電体(2)のネジ部(a)にねじ込まれるネジが設けられたリング状の鉄製の止メネジである。

上記(1)~(6)は、以下に示すように組立てられる。即ち、半導体基板(1)と陰極導電体(3)と継縁板(5)と、川バネ(4)とを陽極導電体(2)の筒状体(2b)に挿入した後、図示しない加圧装置によって半導体基板(1)が陽極導電体(2)と陰極導電体(3)に接触するように川バネ(4)を圧縮変形させ、陽極導電体(2)の筒状体(2b)に設けられたネジ部(a)に止メネジ(6)をねじ込み、圧縮変形した川バネ(4)をその状態で保持するようにして組立られる。

ところで、このような従来圧接形半導体装置は、 次のような問題がある。即ち大電力用圧接 形 半導体装置、例えば外径 30 mm 以上の半導体基板(1)のもの

公開実用 昭和56— 164557

になると、これに加えるべき加圧力を 700 Kg 以上にする必要があるが、中小電力用圧接形半導体装置、例えば外径 12 mm 以下の半導体基板(1)のものになると、これに加えるべき加圧力が 110 Kg 以下で良く、第 1 図に示す従来の圧接形半導体装置では、過剰な品質になる。

この考案は上記の従来の圧接形半導体装置の問題を取除くためになされたものであり、押圧部材の簡状体との接触表面に複数の凸部を設け安価な圧接形半導体装置を提供するものである。

第2図は本考案の一実施例の圧接形半導体装置 に使用される押圧部材を示す斜視図、第3図は本 考案の一実施例の圧接形半導体装置を示す断面図 である。なお第1図と同一符号は相当部分を示す ものであり、説明は省略する。

図に於てWiは環状の鋼製の押圧部材であり、この 押圧部材 Wi の外壁下側にはテーパー部 (10a)が設けられ外壁上側には、その先端部が上部方向に向くヤスリの表面に形成されるものと同様の目切り (10b)が加工されている。なお、この加工はローレット



このような圧接半導体装置の組立ては、まず陽極導電体(2)の筒状体(2b)内へ半導体基板(1)をその陽極が下向きになるように排入する。つぎに、陰極導電体(3)と、絶縁板(5)と3個の皿バネ(4)を順次 推入する。



公開実用 昭和56-164557

つぎに、押圧部材のを、そのテーパー部(10a)が筒状体(2b)の上端部内壁に接するように戦闘する。

さ ら に 、 図 示 し な い 加 圧 装 慣 の 加 圧 台 に 陽 極 導 鼈 体 (2) を 載 遺 し て、加圧冶具によって 押 圧 部 材 ロロ を 上 部から押え、押圧部材 OD が皿バネ (4) を平坦近くに なるまで圧縮変形させるように、規定の寸法また は圧力になるまで押圧部材Wを筒状体(2b)の内壁 に圧入する。その後、加圧冶具の圧力を解放する。 と、押圧部材のはその目切り(10b)によって、筒 状体(2b)に固定され、圧縮変形した皿バネ(4)は排 圧部材似によって保持される。このように本考案 の一実施例のものは、凪バネ⑷の圧解変形の保持 が 陽 極 導 電 体 (2) の 筒 状 体 (2b)の 内 騒 部 に 、 目 切 り (2b)を有する押圧部材 fu を圧入し、飲合させるこ とにより行なわれるので、上記従来の圧接形半導 体 装 置 の よ う に 、 筒 状 体 (2b)や 止 メ ネ ジ ⑹ の ネ ジ - 加 工 が 不 要 に な り 、 し た が っ て 、 中 小 電 刀 用 任 接 形半導体装道を供服化することができる。

以上説明のようにての考案は押圧部材の筒状体



ì

)

との接触表面に複数の凸部を設けたので、安価な 圧接形半導体装置を得ることができるという、優れた効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

第1 図は従来の圧接形半導体装置の断面図、第2 図は本考案の一実施例の圧接形半導体装置に使用される抑圧部材を示す斜視図、第3 図は本考案の一実施例の圧接形半導体装置を示す断面図である。

図中間一符号は相当部分を示す。

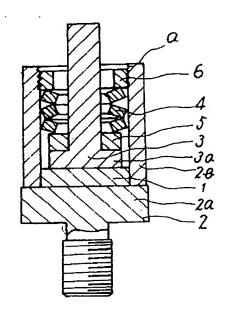
(1)は半導体基板、(2)は陽極導電体、(2b)は筒状体、(3)は陰極導電体、(4)は皿バネ、(10は伸圧部材、(10b)は目切り、である。

代 埋 人 葛 野 信 一

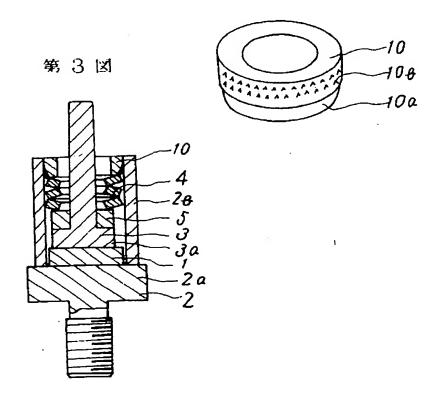


公開実用 昭和56 — 164557

第 1 図



第 2 図



164557



6. 前記以外の考案者、実用新案登録出願人または代理人 考案者

代 理 人 郵便番号 100

> 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号 住 所

> > 三菱電機株式会社内

氏 名(7375) 弁理士 大 岩

増



This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record.

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

□ BLACK BORDERS
□ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
□ FADED TEXT OR DRAWING
□ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
□ SKEWED/SLANTED IMAGES
□ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
□ GRAY SCALE DOCUMENTS
□ GRAY SCALE DOCUMENTS
□ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
□ OTHER:

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.